

鳥取県立美術館整備の進捗状況について

令和 4 年 6 月
美術館整備局
博物館

1 県立美術館整備運営の検討状況等

(1) 施設整備

- ・令和4年1月に建設工事に着手し、2月11日に安全祈願祭・起工式を実施した。
- ・5月末に杭工事は無事終了し、現在は配筋、コンクリート流し等の基礎工事に着手している。
- ・倉吉市の整備計画（史跡大御堂廃寺跡・リス舎跡地等）との調整や福祉団体からの要望、文化庁協議等については継続対応中。

〈スケジュール〉

時期	概要
令和3年1月～	実施設計
令和4年1月	建設工事着工・県民が集う着工の集い
～令和6年3月	建物完成引渡し
令和6年度	建物枯らし期間・開館準備（収蔵作品移転等）
令和7年春	開館（令和6年度中）（運営期間：～令和22年3月）



立ち上がるとこんな様子、天気が良くて事後カッパが乾きます。

左：鳥取県立美術館プレサイトでの「建設工事レポート」より

右：鳥取県立博物館美術部門学芸チーム Instagram での定点観測



(2) 運営

- ①県内全域の文化団体等を中心に出席説明会を開催するとともに、ボランティアや友の会等の県民参画の仕組みづくりの過程で「県民・団体との対話会」を開催するなど、PFI事業者と一体となって全体的な機運醸成を行っている。また、美術館の利用ニーズ把握のための対話会も行っている。
(令和4年5月末現在 10件実施、令和3年度実績 44件)
- ②県内の文化芸術や地域づくり等に係る団体や利用者等の意見や要望等を美術館運営に反映する仕組みをつくる。「県民立美術館」実現に向けた意見交換会（仮称）」を立ち上げ、県民が利用しやすい「県民立美術館」を実現する。
- ③県立美術館のホームページ（プレサイト）、フェイスブック、ツイッターを開設し、美術館の整備運営計画、検討状況の県民周知に努め、県民と気軽にSNSで交流できる場として「とっとりアートLab（愛称：とりらぼ）」をフェイスブックに開設している。
- ④さらに、出席説明会等とは別に、県立美術館ができることを知っていただき、気軽に想いを伝えていただく場として、「県立美術館で” やってみたいこと”、あなたの夢をお寄せください！」と題し、街頭等で気軽に参加できる県民アンケートを昨年9月から実施している。

(令和4年5月15日現在 391件回答)

- ④県民参画の一環として、ロゴ・シンボルマークのデザイン案を公募し(年齢、プロ・アマ不問。県内外の個人、法人・団体いずれも可)、審査には「一般投票」を導入している。来年3月の開館2年前カウントダウンイベントで最優秀賞を発表する予定。(別添チラシ参照)
- ⑤開館初年度の企画展について、県立博物館学芸員やPFI事業者を中心に検討を進めている。



2 「アート・ラーニング・ラボ (ALL)」の試行事業

子どもたちをはじめとするすべての人々の「美術を通じた学び」を支援する美術ラーニングセンターとしての機能を設ける。この機能を「アートを通じた学び」に関する開かれた拠点・研究室と位置づけ、狭義の美術よりも広義のアートを対象とした「アート・ラーニング・ラボ (ALL)」として、今年度は次のとおり試行事業を実施する。

(1) 美術ラーニングセンター機能「アート・ラーニング・ラボ (ALL)」について

「ALL」には、すべての人とアートを共有したいという意図を込め、学校や公民館、外部の研究機関等と連携して「アートを通じた学び」の実践・検証を重ねていく。

(2) 今年度の主な取組

①プログラムの提案・実践

○県立博物館企画展へのバス招待事業 (10月末～12月上旬)

- ・対話型鑑賞を中心としたアートを通じた学びを支援していくため、県内小学4年生等を昨年度に引き続き招待する。(10校程度予定 令和3年度8校9件約500人)



○対話型鑑賞ファシリテーターの養成・登録 (通年)

- ・県内の高等教育機関の学生、県民有志の方々、芸術祭等の活動者と協働するとともに、養成講座(年5～7回)やバス招待事業の小学生へのファシリテーションを実践する。
- ・試行的に、令和3年度末から希望者の登録制度を開始した。(5月末時点で15名登録済)

○コレクション宅配便の実施 (中学校2回、高等教育機関4回、公民館等3回予定)

- ・学校や公民館等の身近な場所に県立博物館の美術コレクションを持ち込み、美術館や学芸員に親しみを持ってもらうとともに、作品鑑賞の楽しさを伝えるプログラムも実施していく。

②研究・開発

○学校現場の理解促進と対話型鑑賞等の周知 (通年)

- ・教員研修の実施 (小学校教育研究会図画工作部会、特別支援学校等)
- ・図画工作科研究発表校との連携授業 (琴浦町立浦安小学校) 等

○「シリーズ：美術をめぐる場をつくる」展の開催 (令和5年2月下旬～3月中旬)

- ・空間全体を作品とするインスタレーション (※) や展示に観覧者が参画できるなど、多様なアートと出会い・学べる場を提供する。
- (※) 絵画や彫刻ではなく、様々な素材で三次元の空間を造形する美術

○多様な利用者に向けた個別プログラムの開発 (通年)

- ・特別支援学校などの障がいのある子どもたちを対象とするワークショップ
- ・教育支援センターや高齢者学級などを対象とするワークショップや作品鑑賞、作品解説 等

③相談

- ・学校での表現や鑑賞の授業に関する提案や講師紹介、教科研究会の指導助言等の相談対応

④検証・蓄積

- ・外部研究機関と連携した鑑賞コンテンツや鑑賞方法についての検証 (鳥取大学附属中学校) 等

⑤発信・共有

- ・4月開催の県・市町村教育行政連絡協議会等で学校関係者へ事業説明を開始した。
- ・その他、バス招待や対話型鑑賞の取組を動画で発信するなど「見える化」に取り組んでいく。

3 美術館フィールド活用支援事業

美術館の設計・建設工事期間中（令和3～5年度）、「とっとりプラットフォーム5+α」との連携により、県内の高等教育機関において、美術館の建設現場等をフィールドとした講義の実施等、学生が設計、建設業界に興味を持っていただける取組みを実施。

【事業内容】設計者等の関係者による講義、PFI事業者関連施設見学（竹中大工道具館 等）、建設現場見学（4月鳥取短大、6月鳥取大学） 等

4 美術館建設現場仮囲い等を活用した機運醸成事業

工事期間中設置する仮囲いを活用して、今年3月から、あいサポート・アートとっとり展やジュニア県展の受賞作品等をプリントシートに印刷し壁面掲示して機運醸成に繋げているところ。



5 美術館を支える仲間づくりや活動の創設に取り組む地域団体等を支援

地域団体等が自ら企画実施する美術館づくりワークショップ、ボランティア育成等の美術館を支える活動を支援。（今年度申請件数6件、令和3年度交付決定8件）

6 美術館づくりワークショップ「アートの種まきプロジェクト事業」

美術の新しいファンづくりや機運醸成を図る取組として、美術館開館までの3か年で『アートの種まき』と題したワークショップ等を実施する予定。

- 「県民とつくる 美術館ができるまでを伝える」フリーペーパー『Pass me (パスマー) !』の発行、関連ワークショップ（令和元年度からこれまでに6号発行済。今年度は7号・8号を発行予定）
- 県立美術館近隣の空きスペースを活用した現代アートの作品展示、ワークショップの開催等（夏以降実施予定）
- 県内の芸術・文化関係者等と未来の美術館について語らうトークイベント（年3回程度）
- アーティスト独自の視点による地域資源発掘のフィールドワーク、インタビュー調査等（夏以降予定）

7 令和4年5月補正予算

○[債務負担行為]鳥取県立美術館整備推進事業 172,066千円

・本年1月から着工したところであるが、急激な資材の高騰、労務費の上昇に伴い、建設費が大幅に上昇する状況となったため、県・PFI事業者で契約書第75条に基づく協議により高騰額を両者で負担することとし、県負担額については県へ建物引渡し完了する令和5年度に支払う。

○地域でつくる美術館応援事業 5,000千円

・地域で活動する団体等が取り組む美術館開館に向けた機運醸成及び地域活性化につながる取組を支援する。

補助対象：催事等開催に係る経費 補助率2/3（限度額：1,000千円、5件程度）

○全県美術館構想に向けたネットワークづくりスタートアップ事業 3,670千円

・県内美術館等が県内外の美術館等と連携し実施する展示事業の開催経費を支援する。

補助対象：作品の輸送や広報等に係る経費 補助率10/10（限度額：500千円、5件程度）

・学校所蔵芸術作品調査事業（身近なアート作品掘り起こし）

県内各学校に所蔵されている芸術作品の掘り起こしを行い、その作品の価値や背景を調査して公開することで、作品に光をあてるとともに、児童生徒や地域の住民が文化芸術に親しむ機会につなげる。

「とっとりの未来を“つくる”美術館」を、一緒につくりませんか？

鳥取県立美術館 ロゴ・シンボルマーク 募集

これから始まる美術館の長い長い歴史を
あなたの作品と一緒に歩みます

2025年春、鳥取県に新しい県立美術館が開館します。

目指すのは、鑑賞の場にとどまらず、人々が集い、楽しみ、活動し、
とっとりのアートを発信する拠点としての「未来をつくる”美術館」。
そんな県立美術館を象徴するロゴ・シンボルマークだからこそ、開かれた場で
みんなで作りたいとの想いから、誰もが参加できる公募を行います。



提供：横総合計画事務所 イメージ制作：ヴィック Vicc Ltd

応募資格

どなたでも

応募期間

2022年7月7日(木)～7月21日(木)

募集内容

2025年春に開館する鳥取県立美術館の
ロゴ・シンボルマークのデザイン案

※シンボルマークのみ応募も可

各賞

最優秀賞（1名）最大80万円

※各種権利譲渡の対価（10万円）+関連業務委託費（70万円）
※詳細は募集要項を参照 ※金額は税込み

優秀賞（3名）副賞：鳥取県の特産品

特別賞（若干名）副賞：鳥取県の特産品

オンラインで説明会を開催します！

※後日、録画の配信も予定しています。詳細はプレサイトに。

■日時 2022年5月12日(木)
19:00～20:00

■申込 プレサイトもしくは
右のQRコードから



ZOOMウェビナー

応募方法

応募書類をホームページからダウンロードし、
郵送または応募フォームから提出

デザイナーの方はもちろん、手書き作品でも、
親子で共作でも、グループでの応募もできます。
多くの方からのご応募、お待ちしております！

募集の詳細・応募用紙のダウンロードはプレサイトから！

鳥取県立美術館プレサイト <https://tottori-moa.jp>

主催：鳥取県立美術館パートナーズ株式会社・鳥取県教育委員会

検索

鳥取県立美術館

mail: info@tottori-moa.jp

館の整備運営には、民間のノウハウを公共施設の整備運営に活かすPFI手法を導入し、県内企業を含む10社で構成された
「鳥取県立美術館パートナーズ株式会社」が県と共に整備運営を担い、開館準備を推進しています。

詳細はコチラ

